

ーションと換気が必要であり、その環境がなければ1部屋に1名、1家族しか収容できないとのことであった。

この話を踏まえると、今回の台風10号でも、避難者を収容できない避難所が発生した。このことは、避けようのないことだと思う。今後は、想定収容人数以上の避難者を受け入れるというやり方は、通用しないだろう。また、災害の程度によるが、いち早く避難した人が優先という方法も考えていかななくてはならない。本来、避難所は、災害により家を失った人や失う可能性の高い人を受け入れる場所であるはずである。そのように考えると、今後、取り組まなければならないことは、避難＝避難所ではなく、また、公的な避難所に限定するのではなく、親戚・友人宅やホテル等への避難、高層の建物への避難など、いわゆる分散避難について個人はもとより、地域で考えていくことが求められる。それは、見方を変えると、地域資源（ホテル等の宿泊施設、立体駐車場、高層マンション）の把握や、日頃からのご近所付き合いを見つめ直す機会にもなり得る。

### ●ウィズコロナにおける避難所開設・運営のポイント

さて、ウィズコロナにおいて避難所開設・運営はどのようなことに気をつけたらよいのだろうか。ここからは、訓練当日の大渡先生の講演内容をご紹介したい。大渡先生からは、大きく9つの視点からお話を頂いた。

#### ①アルコール消毒の注意について

- ・お酒が全く飲めない体質の人などで、少数だがアルコール消毒でも手が被れる人がいる。
- ・申告があれば石鹸手洗いで対応。30秒程度のもみ洗いを意識する。
- ・アルコール消毒も、すぐに乾かすと効果が減弱するので、15秒の湿潤を意識する。

#### ②体温計について

- ・接触式体温計は使い回さない（使用しない）。
- ・非接触式体温計は、おでこ以外では正確に測れない。また、遠すぎてもいけない。
- ・汗をかいている場合は、汗を拭き、少し時間を置いて計測する。
- ・屋外では日光の影響で高い値になる。なるべく

日陰、屋内で利用する。

#### ③消毒液の種類と作り方について

- ・次亜塩素酸ナトリウム消毒液は酸性の消毒液であり、漂白や金属を錆びさせる効果がある。金属に使用する場合は、特に水拭きを心掛ける。
- ・手指の消毒には使えない。

#### ④うがいについて

- ・うがい薬は、新型コロナウイルスに対する効果が明確になっていない。殺菌力の強い物を使用しすぎると逆にのどを傷つける可能性が指摘されている。
- ・水うがいは効果的。

#### ⑤換気について

- ・窓の常時開放を心がけ、開放が困難な場合も1、2時間に1回など、こまめに換気する。
- ・扇風機があれば設置し、入口から窓に向けて風が流れるよう工夫する。

#### ⑥滞在スペースの感染対策について

- ・手すり、ドア、スイッチ、エレベーターなど、手が触れやすい部分は、1日に複数回消毒する。
- ・トイレは、「発熱者または感染疑い者」用と「無症状者」用に分ける。
- ・エレベーターは2、3名までの乗員制限を設ける。

#### ⑦避難生活における薬の重要性について

- ・必要な薬が無い場合、避難生活のストレスと重なり、ほんの1日で危険な状態になる場合がある。
- ・普段飲んでいる薬が分からないために、薬が入手できないことがある。
- ・特に高齢者の避難誘導をする際には、日常使用している薬を持参しているか、薬の余裕があるかを確認する。

#### ⑧バイタルチェックについて

- ・避難者の多くが高齢者と想定される。避難所では医師の診断が受けられないため、体温・血圧などを定期的に計測・記録し、数値の変化に気を付ける。

#### ⑨熱中症対策について

- ・水分補給、エアコンを使用しながらこまめな換気、2m以上の距離が確保できればマスクを外す。
- ・咳エチケットなどを徹底する。